



世界的なショコラティエの土屋公二氏の談話

発行人
 静岡県立静岡商業高等学校
 同窓会 関東支部
 (静岡同窓会関東支部)
 〒244-0801
 横浜市戸塚区品濃町
 547-1 B501
 TEL. 090-1117-2750

編集
 関東支部広報部会
 令和8年5月11日発行
 (毎年1回・5月発行)
 題字 初代支部長
 湯本克巳氏
第35号



大石倫義支部長

令和7年度総会・懇親会に老若男女

91名が結集

令和7年度の総会・懇親会は、7月12日(土)千代田区平河町の都道府県会館で行われ、関東地区在住者75名(男性65名、女性10名)、静岡地区からの参加者12名(男性7名、女性5名)、来賓4名、総数91名が総会場に集まり、総会と懇親会を楽しみました。

参加人数をみると、当番年度の運営役員を応援しようと静岡から交通費をかけて来てくれた人や、関東の総会・懇親会は楽しいからと静岡から参加してくれた人が12名も居て、嬉しい限りです。



卒業したての新人さん



学芸員の塚田美紀氏と土屋公二氏

また、今年の総会・懇親会には、母校に向いて開催した関東支部の説明会や、5月に都内で開催した歓迎会の成果として令和7年の卒業生が2人参加してくれました。途絶えていた若い同窓生との繋がりができたことを喜びたいと思います。

一方、例年参加していた80代の人達の参加が減少するなど、出席者データにも高齢化の影響を感じましたが、懇親会の方は盛りだくさんの企画で、3時間を超える懇親会もあったという間でした。

中でも、母校迄取材に行った「母校静岡の最新映像」や54年卒で世界的なショコラティエの土屋公二氏の談話「静岡と自分の人生」

など、企画と準備の苦労を同合わせる出し物でした。

更に、明治時代の卒業生・北川民次画伯の業績を調査研究している世田谷美術館の塚田美紀学芸員さんに特別ゲストとして参加して頂きました。

歩くと美の観賞会が世田谷美術館を訪れたのが縁で、静岡時代の情報を提供したり、母校との縁を取り持つたりしたことから特別参加して頂いたもの。

今まで例のない部外者のゲストですが、「歴史のある高校の同窓会がこんなに盛大に行われ、現在も土屋公二氏のような才能ある人も輩出していることに驚いた」という感想をいただきました。

的な存在で、社会に貢献できたことを喜びたいと思います。



校歌斉唱

さて、今年の総会・懇親会は「喜山倶楽部」という新しい会場です。新しい会場なりの制約はありますが、運営役員が色々なアイデアを企画してくれています。総会と懇親会は久しぶりの円卓です。輪になって会話を楽しんで下さい。

静岡同窓会関東支部
 支部長 大石 倫義

**令和8年度
 関東支部
 総会・懇親会
 6月21日(日)
 喜山倶楽部**

くわしくは別紙総会案内を参照



けり! 令和に繋げ PRID”

卒業したての新人です



S56年卒 海野光利
静岡同窓会関東支部総会に初参加!!

的でありました。高校時代の数々の思い出話、特に当時当たり前のようにまかり通っていた母校の悪しき風習などを面白、可笑しくご紹介いただき、大いに盛りあげていただきました。また、「校歌・応援歌をみんなで歌おう」アワーでは、

まず私がなぜ関東に行きかけたのかというところは、東京で就職したいからです。東京で就職したい理由は私自身もともと都会に憧れてきたからです。まず昨年2月に関東支部の説明会を聞いたとき、いよいよ関東民になるんだと感じました。説明会を聞いて関東支部の同窓会にも参加したいと思いました。昨年4月に東京都民になり、5月に今までは行われなかった歓迎会が初めて行われ私は参加しました。東京タワーやお台場や豊洲市場などに行き、本当に東京に来たんだなと感じることができました。そして7月に同窓会が行わ



R7年卒 石野航大
憧れの関東民に…目標はIT系企業で活躍

れ参加しましたが、食事もとても美味しかったです。卒業後4年間は無料で参加できるのになかなか4年間は絶対に参加できませんでした。他にも同窓会では私より50年以上上の先輩と話をすることができて、とてもためになりました。校歌や応援歌も歌い、改めて静岡で3年間学んで良かったなと思うことができました。



在校中は、情報処理部に所属しておりました。同窓会当日は、校長先生から全国大会で団体優勝を果たしたことを紹介いただき、大変恐縮しつつも光栄に存じました。部活動で培った情報処理の技術や、全国大

この度は、7月に開催されました関東支部の総会および懇親会にて、大変お世話になりました。2024年度に静岡商業高校を卒業し、現在は日本大学経済学部在籍しております。筑地龍之介と申します。



R7年卒 筑地龍之介
社会に貢献できる人材をめざして

ました。部活動はワープロ部で英文をやっていました。最終的には東海大会まで進めたのでとてもやりきったという感覚がありました。学科は情報処理科で学んでいて、より深く学ぶために



私が関東支部の同窓会に参加させていただいたきっかけは、大学進学を機に関東へ移り住み、同郷の先輩方と交流を持たせていただいたいと考えたからです。新しい環境での生活が始まる中、同じ母校を持つ先輩方の存在は大変心強く感じられました。

会という高い目標に向かってチームで日々努力した経験は、現在の私の大きな糧となっております。今は大学での学業に加え、自身の目標に向けて日々勉強に励んでおります。将来は、専門知識を活かして社会の発展を支える会計の専門家になりたいと考えています。

IT系の専門学校へ進学しました。基本情報に合格し、現在はIT系企業へ就職することを目指して就職活動もしつつ、Javaや応用情報に向けての勉強をしています。





運営役員を担当しました

昭和は遠くなり “SEISHO

静岡昭和56年卒にして、今回初めて同窓会関東支部総会に出席させていただいた。私事ではあるが、高校卒業後上京し金融機関に就職して以来、全国各地を転勤したのち、平成11年によく千葉県佐倉市に居を構え20年余りが経過したが、お恥ずかしながら関東支部の存在を知ったのはつい最近のことでした。

同支部の活動に従来より積極的関与されていた高橋さんから、「是非協力して欲しい」との依頼を受け、その熱意に押され「少しでも役に立てれば」との思いから、関東6名、静岡4名の同期とともに参加させていただいた次第でした。

初めての総会参加で正直驚いたことは、還暦を過ぎた自分よりも更に多くの人生を重ねてこられた大先輩が多数出席されていたことで、支部活動に一方ならぬ思いを寄せる方々がこんなにも沢山いらっしゃるということでした。

総会運営役員としては、郷土の名産品販売を担当したのですが、「こんなにたくさんのお品、売れ残ったらどうするのだろうか？」との思いがよぎる中、ごこない販売員にも関わらず懇親会開催前には無事売切れ、安堵したことを覚えております。総会に参加された皆様のご協力にこの場をお借りし改めてお礼申し上げます。

さて、楽しみにしていた懇親会では、世界的なショコラティエである土屋さんの講演が何とんでも印象

存じ上げない先輩とも肩を組みながら「応援歌第三」などを皆で大声を出して歌え、若かりし頃を思い出し久々に清々しい気持ちになれました。我が母校の応援歌は老若男女問わず、気持ちを一つして盛り上がる大事なツールであると改めて感じた次第でした。

今回の関東支部総会を通じては、同期の結束力の強さも感じたところであり、高校以来の再会者も半数以上いた中で、運営役員として各々の役割を協力しながら円滑に対応できたものと

認識しております。静岡を通じて巡り合えたこの縁をこれからも大切に、第二、第三の人生を楽しんでいけたらと感じた次第です。

最後になりますが、同窓会関東支部がこれからも若いパワーを加えながら“SEISHO PRIDE”のもと、ますます活発に活動されていくことを記念しております。

静岡からの応援とみんなに感謝 S56年卒 高柳佐和美



運営委員会は3名のS46年卒の先輩とS56年卒2名、静岡からリモートで石川さんも参加して始まりました。それでも、同期への声かけは諦めませんでした。

大石支部長、相川副支部長に助言などいただきながら、スローガンやイベントの内容が決まる中、一人二人と仲間が増えていきました。緊張した当日、朝から常任幹事の先輩方と準備をして皆様のご来場をお待ちしました。わさび漬け、うなぎパイなどと一緒に土屋さ

んのチョコレートが売り場に並び、見事売切。懇親会は、予定より遅れて始まったので、司会進行の裏で小菅さんと時間の調整。ハラハラドキドキ。動画や土屋さんの講演があまりに楽しく、林さんの漫談の様な「田町七丁目90番地」の歌唱指導に恒例の応援歌と終始皆さんの笑い声が響いていました。時間もバツチリ。大成功ですよね。

ショコラティエ土屋さん、素敵な講演ありがとうございました。何も解らなかつたS56年卒生を先導し、会議の資料の作成、幹事会での報告をしてくださったS46年卒の

先輩にとっても感謝しています。また、集まってくれた心優しき同期たち。本当にうれしかった。ありがとう。これからも関東で集まりましょうね。

新卒で参加のお二人、今回参加できなかった方も関東の生活楽しんでください。静岡同窓会関東支部が若い世代に繋がりますように。





シリーズ第二回
『卒業生の本音』



飛鳥圭介こと S4 1 年卒坊野秀美さん

『故郷の言葉は宝だ!』
飛鳥圭介

静岡で生まれた育った人間は、「静岡弁（しずおかべん）」を話す。いわゆる標準語とはアクセントも違うし、もちろん「方言」といわれるものもある。また、標準語と言葉は同じでも使い方が異なる場合もある。例えば、帰宅すると一般には「ただいま」と言う。静



岡では「行ってきました」と挨拶する。おかしな所はひとつもない。しかし、私が若い頃、東京の親戚宅に厄介になり、そこから外出して帰ったときに「行ってきました」と挨拶したら驚かれた。叔母が「どこへ行ってきたの?」と。東京では「ただいま」が一般語なのだった。静岡を十八歳で卒業して以来、もう六十年もの年月を東京で暮らしてきた。しかし静岡弁は抜けない。静岡で同期だった妻もしずおか弁が抜けない。妻は静岡から進学して小学校の教員となつて東京に来たのだが、東京の小学生たちに「そこからこまでトンドきなさい」と号令し

たら、彼らはびよんびよん跳びはじめたという。私たちの共通理解では「走る」ことを「とぶ」というのだ。子ども同士で「とびっこ」するのは「競走」することなのだ。というわけで、私ら夫婦の会話は静岡時代と変わらず静岡弁だ。夫婦の子どもたちは東京育ちではあるものの、言葉は親の口移しなのだから、当然のように違和感なく静岡弁を駆使している。「お父さん、仕事に行くら?」などとごく自然に口にする。私らも静岡弁を恥じることはない。故郷の言葉は宝だ。恥じるどころか誇りにさえ思ふべきだ。若い時分は田舎者と軽く見られ侮られたくないし、見栄も気取りもある。だからいわゆる「標準語」で身を守ろうとする。だがせっかくの宝を「惜しいではないか。仕事では「標準語」使用は仕方がないとして、せめて私事のシーンでは、堂々と静岡弁で世界と渡り合おう。

テレビを見ていて、あの人は静岡の衆ざらえーとピンとくることがある。それくらい身についた言葉は分かり合えるのだ。ただ清水次郎長ものなどで使われる疑似静岡弁には少々腹が立つ。やたらに「ずら」を多用して「俺も飲むずらよ」など静岡人が使うことのない使われ方を目にするに情けなく

私は地方新聞相手の仕事をしている。その仕事の中で知ったことは、地方新聞の記者たちはその地方の「言葉」を例外なく堂々と臆することなく話すことだ。熊本の記事は熊本弁（なな）を、高知の記事は高知弁（まっことやるきに）を、という具合に生きた地方弁を直接耳にした経験から、私は私の静岡弁を大切にすることを教わったのだと思う。

母校に書籍等寄贈



S42 年卒 高塚年明さん

昨年末ですが、地元の藤枝・焼津の合同同窓会があり、松浦真一郎校長と再会しま

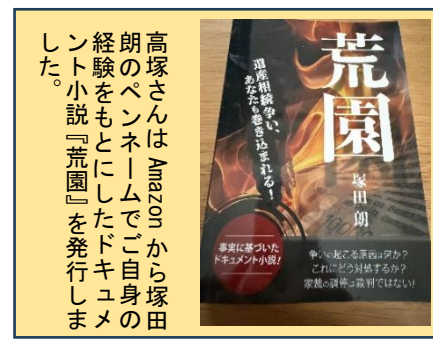
先日静岡の同期会の集いがあり、懐かしい静岡弁が飛び交った。「えーだよ、こうやってみんな集まってハナシすりゃあ、元気が出るだよ。また八十でやりやあええじゃん」「二次会いくら?」「せーじゃー、おらんちで飲み直すかやー」「またにしぎあー」了

その場で、私が現在、書籍の断捨離を実行中であり、その中に高校野球の特集雑誌が 20 冊以上あり、あの幻の第 50 回高校野球選手権大会の記録映画（監督：市川崑）『青春』も所有しており、巨人軍投手であった新浦君が表紙に載っている『NUMBER』も含めて母校に寄贈したい旨話したところ、快諾していただき、送りました。

これらは漫画ではありませんが、私が大人になってから読んだものであり、人間としてどう生きていくべきかを決まりました。

書籍の断捨離を続行していますが、手塚治虫の『火の鳥』全巻、『BLACK JACK』全巻、『ブッダ』全巻、『アドルフに告ぐ』全巻、『シュマリ』全巻そして藤子不二雄の『まんが道』全巻、フランスで最高作品賞をとった坂口尚の『石の花』全巻を所有しており、これも寄贈することに決まりました。

示唆してくれるものです。青年時代は迷うものです。後輩諸君がここから何かを掴んでくれればとの思いから寄贈することにしました。松浦校長も大いに賛同してくれました。



高塚さんは Amazon から塚田朗のペンネームでご自身の経験をものとしたドキュメント小説『荒園』を発行しました。



書籍の断捨離はまだ続行中ですので、第 3 弾も出てくるかもしれません。

静岡商業が産んだ世界的画家

特集：北川民次

世田谷美術館での邂逅から



令和7年5月 親族と一緒に母校を訪問

令和7年の総会には、左の写真の出席者が居ましたが、覚えていますか？
部外者ですが、静岡商業・静岡同窓会とは縁の深い世田谷美術館の学芸員塚田美紀さんです。



〈塚田さんは北川民次の研究第一人者〉

北川民次と言う名前を聞いて素性が思い浮かぶ人は少ないと思うので、最初に北川民次を説明します

北川民次は明治43年から大正2年3月まで静岡で学んだ西洋画家で、メキシコで生活をしながら画風を確立し、日本に戻って来てからも学生に対する美術教育を進めていたことで、日本の美術史に名を残す静岡同窓生です。

〈関東支部との邂逅〉

関東支部では令和6年10

月に「歩く会」と「美の観賞会」合同でこの北川民次展を見学しており、その際に塚田学芸員と面識ができたので、展示を見終わった頃、塚田学芸員から「北川民次の後輩であればわかるかも」と、いくつかの質問を受けました。即答できるものではなかったのですが、調査をして後日回答したところ、今までの調査では知りえなかった情報だったということで、大そう喜ばれました。

〈興味は、郷土と母校に拡がって〉

提供した情報は「静岡就学期間」「静岡での生活エピソード」「島田市に住む親族の情報」で、北川民次の生活に生で触れるチャンスにつながった。結果、令和7年3月発行の「世田谷美術館紀要第26号」に論文として掲載されました。

さらに塚田氏の興味は北川民次を育てた郷土と静岡商業に拡大して行きます。

令和7年5月には、島田市に住む北川民次の親戚の方へのヒアリングの後、一緒に母校を訪れることになった。

この訪問をアシストしたのは関東支部でしたが、松浦校長先生は出張と重なったため出席することができず、4名の訪問者は同窓会の本

〈原顧問の計らいで支部総会に参加〉

前述の通り、校長先生は出席できなかったのですが、塚田さんとの面談の機会を探したところ、総会当日ならスケジュールも場所も合わせることも可能と判明し、総会前に控室で面談して頂きました。

面談終了後、原顧問から「総会・懇親会への出席」のお声掛けをしたところ、途中までなら可能と返事をいただきオプザーバー出席が実現したものです。

〈静岡のすばらしさを感じる同窓会〉

総会後も2時間ほど交流をして頂いた後、退席に際しての挨拶で塚田さんは、「今日は縁有って静岡同窓会に参加させていただき本当に感謝しております。関東支部には情報提供をいただき感謝しております。先般、訪問した母校では、北川民次のことを知り、作品の収集と展示をしていることに驚きましたが、今日は120年を超える高校が、現在もこれだけの規模の同窓会を開催していることに歴史を感じ、驚きました。」という率直な感想を述べています。

〈北川民次の足跡をたどる〉

冒頭に略歴を書きました。北川民次は榛原郡五和村牛尾(現在の島田市牛尾)の製茶業の家に生まれ、静岡市に下宿をしながら静岡に通う生徒でした。

静岡時代から油絵を描いていましたが、早稲田大学を中退して茶業の対米進出の為、サンフランシスコに渡りました。その後、茶の販路を拡大するためポルトランド、シカゴ、ニューヨークと移動を続け、ニューヨークでは舞

台美術制作工房で働きながら美術を学び、キューバを経てメキシコに渡り、壁画運動に共鳴し、メキシコの生活を題材とした作品を残しました。

昭和11年にメキシコから帰国し、児童美術の教育者として活動しました。日本の美術界では、昭和53年に二科会の会長を務めています。

〈静岡同窓会も北川民次を支援〉

今回は、世田谷美術館の塚田学芸員との関係から記事の掲載しましたが、昔からいくつかの接点がありました。平成31年1月27日(日)の日曜美術館に北川民次が登場したことがきっかけで、赤石当時本部長が11点の作品を購入し、母校に寄贈しました。

令和元年12月に寄贈式が行われ、功績をたたえて晩年を過ごした瀬戸市の美術館館長から全校生徒に講演が行われました。

同窓会は本部と支部の役員が出席し、関東支部から海野当時顧問が出席しました。

北川民次 プロフィール
(静岡第12回本科・大正3年卒)



北川民次は明治27年(1894年)静岡県榛原郡五和村(現:島田市牛尾)に生まれ、静岡商業高校に進学し、江戸時代の軟文字を脱したり、女流丈夫を脱して芝居小屋に向いたりしていた。また、「民次は、明治45年度第1回演劇部普通会において、「デカダンス」の内容、という演題で熟考を凝らしているが、他の演題と比べて、民次のそれは異彩を放っている。」と「静岡百年史」には語られている。

卒業後は早稲田大学商学部科に進学されたが、日本での生活が一息入れることを決意、大学を中退し、野望を海外に投じ、ニューヨークにあるアート・ステューデント・リーグに属しそこで絵画の基礎を7年間に渡って学んだ。

さらに、メキシコ近郊のトラルバムやタスコの野外美術学校で児童美術教育に携わりながら、自身の絵画の制作に取り組みした。

昭和11年(1936年)にメキシコから帰国し、一旦、実家のある島田市で生活し、次いで妻の実家がある愛知県瀬戸市柳田町で1年近く過ごした。1936年から1937年(昭和12年)には水戸の建作「瀬戸風流」を描き、その結果、日本の水彩画の歴史に新しいページとなった。その後、彫形や版画にも力をいれ、画家、版画家としての地位を確立させた。メキシコで身に習った画法で人物や風景を描き、その作品を二科展に出展した。それらの作品が多岐にわたるに愛され、認められたことで、翌年(1937年)、二科展の会員に推荐された。

1978年(昭和53年)4月に二科会会長の東郷啓吉が死去すると、北川が前任の二科会会長に就任したものの、同年9月に会長を辞任し、1979年(昭和54年)には二科会を退会した。二科会を退いたのは昭和同窓会には、絵筆を置き、表明も行っていない。

1986年(昭和61年)にはメキシコ政府から、外国に対する最高位の勲章であるアギラ・アステカ勲章(英語版)を授与された。その一方で、愛知県が北川に勲章を授与しようとした際には固辞している。1989年(平成元年)4月28日、瀬戸市の衛生病院で97歳の生涯を閉じた。(文中敬称略)

参考:『静岡百年史』上巻 p224-P227 / 『静岡同窓会報』第三六号「北川民次コレクション」 全頁
集合: / https://ja.wikipedia.org/wiki/北川民次

静岡ギャラリー内の説明



令和 7 年 6 月 13 日 田園調



【第 31 回 あじさいが 咲き誇る 多摩川台公園】



SC あじさい

同好会 だより

蒸し暑い梅雨の最中の 令和 7 年 6 月 13 日 田園調

布駅に 11 人が集う。カジュアルイタリアンでおしゃべりな美味しいランチを堪能した後、イチョウ並木の高級住宅街を 10 分程歩き木々の茂る丘陵地「多摩川台公園」に入りました。古墳群が点在し自然林から多摩川の雄大な景色を一望できる。綺麗に整備された広い公園は散策路が巡らされ、ベンチも充実したシニアにも優しく静かで心地よい園でした。古墳展示室も有り古代人のミステリアスな歴史にも触れる事ができました。地形を巧みに利用して造られた斜面には紫陽花が咲き誇る「あじさい園」が広がり、しつとりとした佇まいの中を縫うように散策しながら様々な紫陽花の表情を皆其々に写メに残しました。出口は丁度「多摩川駅」に繋がり、目前には大田区の素敵な憩いの森「せせらぎ公園」があり、レストランスペースで一息つきながら談笑。目一杯欲張った一日でした。

【第 32 回 柴又で寅さんに会う】

猛暑続きの日々から漸く秋の兆しを感じられた 令和 7 年 9 月 24 日 葛飾柴又の下町を楽しみました。ランチは 140 年の歴史を誇る「大和屋」の上天



寅さんと記念撮影



帝釈天をバックに

井。店先で揚げた 2 本のサクサクの大海老が濃い甘だれで美味しい。参道の商店街を見ながら進むと帝釈天の立派な二天門が表れ記念の集合写真を撮り、帝釈堂にお参りしてから「彫刻ギャラリー」の見事な立体彫刻を鑑賞。法華經の説話が 大正時代の名彫刻師により繊細に彫られた力作に見入っていました。

帝釈天から数分歩き海外メディアにも注目された大正ロマンの佇まいがある「山本亭」に寄りました。ガラス障子を用いて開放された濡れ縁から観る美しい緑の景色は心安らぐスポットでした。隣接された「寅さん記念館」と「山田洋次ミュージアム」では今は亡き名優達が偲ばれて、昭和の世界を懐しく思い出されました。スピード感を持って巡った柴又でしたが、締めくくりは「寅さん」でお馴染みの高木屋で至福のお団子を頬張りながら、おしゃべりに花を咲かせました。

昭和 40 年に作庭された「邃溪園」の Z 型に続く長い回廊を巡り、大客殿からの美しい癒しの庭を堪能しました。

令和 7 年 12 月 3 日 南北線駒込駅改札口に集まったのは 7 名。ランチはリーズナブルな料金のフレンチレストラン「オララ」です。狭いのが落ち着いた大人の雰囲気がかもし出し、美味しさに満ち足りた笑顔を残し六義園に向かいました。大名の優雅な日本庭園の景色は素晴らしく、池を巡らす鮮やかな紅葉が輝く。野外のエンターテイメント「江戸大神楽」に出会い、日本の伝統芸能の魅力

【第 33 回 紅葉の六義園と 巣鴨とげぬき地蔵】

紅葉の六義園と 巣鴨とげぬき地蔵

に引き込まれました。タクシーでおばあちゃんのお原宿、巣鴨地蔵通り商店街に向かいました。「日本一の赤いパンツ」の真っ赤な看板に引き寄せられ、専門店やシニア体型を熟知したオシャレな婦人服の衣料店等では目を楽しませてくれました。



とげぬき地蔵尊高岩寺の山門に吊るされた大きな紅白提灯はひときわ目を引き「心身のとげを取り除く」石像の「洗い観音」に身体を治したい部分を柄



杓で水を掛けながら、タオルで丹念に洗い清めて皆ご利益を願って手を合わせていました。帰りには人気の洋食店「タカセ」の 2F でシュークリーム & 珈琲の茶話会で盛り上がり、お土産の巣鴨名物「塩大福」を片手に今回も楽しく充実した SC あじさいになりました。

【第 34 回 旧徳川家住宅 松戸定邸】

令和 8 年 3 月 3 日は生憎の雨天の中 8 名が千葉県松戸市の「戸定が丘歴史公園」内にある水戸藩最後の藩主徳川慶喜の弟徳川昭武が後半生を過ごした別邸「戸定邸」を訪れました。



歴史と自然を同時に感じられる 素敵なスポット

SC あじさい会長 S 43 年卒 岡本朗子

ゴルフ同好会



令和8年1月24日(土) 定例のゴルフ同好会の新年会及び定期総会が実施されました。

総会では、相川幹事長が業務多忙のため退任し新たに鈴木昭彦氏が幹事長に就任いたしました。相川様お疲れ様でした。鈴木様宜しくお願い致します。

そして、鈴木新幹事長の初仕事の春のコンペ開催が4月7日(火)取手桜ヶ丘ゴルフクラブにて実施することが決定いたしました。早速、競技方法を変更しダブルペリア(12ホール隠し方式、オーバー上限なし)ハンデイヤップ上限なしです。から、女性陣も優勝可能性大です。春のお花見コンペがますます楽しみになってきました。



鈴木新幹事長

例年、年間3回のコンペを実施してまいりましたが当会も高齢化が進み最近の夏の暑さは危険と判断して春・秋の2回に変更させていただきました。

秋の例会は、令和8年10月14日(水)那須塩原カントリークラブにて実施予定。また前日には盛大に前夜祭を行います。皆様楽しみに予定に組み込んでおいてください。

夏には、練習会も計画しておりますので是非参加いただけますようお願い致します。ゴルフに運動神経はあまり関係ありません。同じことが何回でもできる事が重要です。再現性が一番、飛ばすことも必要ありません。アプローチはまともです。そのために大事なのが練習です。練習は嘘をつ



第76回取手桜ヶ丘GC優勝S51年卒関原さん(静岡より参加)



第77回房総CC優勝S49年卒根岸さん



令和7年(2025)5月以降開催及び予定

- ◆第76回 R7.6.2(月) 取手桜ヶ丘GC (R7.4.2 雨天中止のリベンジ開催)
- ◆第77回 R7.10.5(日) 前夜祭開催 R7.10.6(月) 房総CC
- ◆新年会 R8.1.24(土) シーボニアメンズクラブ
- ◆第78回 R8.4.7(火) 取手桜ヶ丘GC
- レッスン会開催予定
- 第79回 R8.10.13(火) 那須塩原CC 前夜祭開催予定 R8.10.14(水) 那須塩原CC 開催予定



新年会での楽しいスピーチ後藤会長(左)と林和義さん『幸期幸齢』



きません。練習して、練習して、練習して、練習して、練習して、今年も一生懸命頑張つて

人類が残した最も偉大な芸術作品は何か。各人がそれぞれ思い入れの作品があるであろう。わたくしはファン・ゴッホの「星月夜」(ニユーヨーク近代美術館蔵)であると思う。この作品はゴッホがピストル自殺する一年ほど前に描いた作品でネット

【最も偉大な芸術作品】



秋山会長

美の観賞会



ゴルフ同好会 会長 S38年卒 後藤忠昭



スコアアップを目指しましょう。



美の観賞会 S35年 秋山卓男

にて鑑賞できるし、印刷もできる。作品の三分の二は夜の空が描かれている。星雲の渦がいくつも描かれていて、海流の渦のようだ。三日月もいくつもの星の固まりも描かれている。手前の黒い糸杉が画面を縦に割っている。地上には何軒かの民家と、中心に教会が描かれている。ゴッホはこの時、自分の命は永くないと考えていて、この世界の解釈としてこの絵を残したに違いない。それゆえ、この作品はわたくしの心を打ってやまないのである。



ゴッホ『星月夜』

歩く会



◆ 秋の例会 ◆

今回は「秋の街歩きを楽しむ」をテーマに新宿区内を歩いてきました。

◆ 令和 7 年 11 月 5 日 行程
青山一丁目駅～神宮イチョウ並木～オリンピックミュージアム～国立競技場～新宿御苑～小泉八雲記念公園～新大久保駅



東京にはイチョウ並木がたくさんありますがこの神宮外苑のイチョウ並木は中でも一番おしゃれで駅から近く人気のスポットです。



並木道を抜け、明治神宮球場を横に見ながらオリピックミュージアムに入館し見学しました。歴代のメダリストや聖火トーチの展示に加え昭和 39 年



京都から来た修学旅行の高校生に集合写真を撮ってもらいました

開催東京オリンピックのレプリカメダルを首にかけて表彰台上がることのできる楽しいミュージアムでした。その後向かい側にある国立競技場の周りをのんびり歩きながら新宿御苑に向かいました。シートを広げ持参の軽食やお菓子を食べてしばし休憩タイム。開催中の菊花壇展を見て回りました。



小泉八雲記念公園にて

次の目的の地は前回朝ドラ「ばけばけ」のモデル小泉八雲の記念公園です。小さいながらも彼の故郷ギリシャを感じさせる作りの素朴な公園でした。さあ、いよいよラストスパート。新大久保駅周辺のコリアンタウンはエステ、雑貨、ファッション等で老若男女に大人気ではありますが、そんなことには無縁の私たちはスートと通り抜けてゴール地点にたどり着きました。8・5 km お疲れ様でした。



ゴールの後は韓国グルメを堪能

◆ 春の例会 ◆

「神楽坂境界のお散歩」
◆ 令和 8 年 4 月 9 日 行程
神楽坂駅～赤城神社～毘沙門天善国寺～兵庫横丁～筑土八幡神社～かくれんぼ横丁～牛込見付跡～東京大神宮～飯田橋駅



神楽坂は和と洋、レトロとモダンが見事に融合され層の厚さを感じる粋な街でした。

最初に立ち寄った赤城神社は世界的建築家隈研吾氏監修により再建され、マンションと一体化していてまさに神楽坂を象徴しています。

道中素晴らしい出来事がありました。横丁巡りをしている途中で筑土八幡神社を見つけ、予定にはなかったものの時間があつたので足を延ばしてみました。神社の手前に立っていた「田村虎蔵記念碑入口」の石柱を見て S 38 年卒杉本さんと S 48 年卒青島さんが「校歌を作った人だ」と声を上げたのでスマホで調べたところ静商の校歌を作曲された方でした。私たちが引き寄せられたのか大いに盛り上がりま

した。田村虎蔵さんは童謡の金太郎や一寸法師を始め多くの作品を世に出している作曲家ですがそんな偉大な先生が校歌を作ってくれたことに驚きでした。



その後、横丁の石畳の隠れハート形を捜したり老舗お菓子屋さんで買いたりしたりゆったりした時間を過ごして最後の東京大神宮に辿り着きました。3 時間お疲れ様でした。



疲れを癒す慰労会

旨い酒と旨い肴を 愉しむ会

昨年初冬の「新そば会席の会」は他同好会と日程が被ってしまった等で実施出来ず。又、年末年始も店の予約が難しく会の催しは延び延びになってしまいました。今年 5 月に相撲茶屋の「ちゃんこ鍋(予算 5 千円から 6 千円)」予定しています。

ご参加いただける方はちゃんこ鍋貯金をお願い致します。久しぶりの開催となりますので大勢のご参加をお待ちしております。



旨い酒と旨い肴を 愉しむ会 会長 S 38 年卒 杉本博行



歩く会 会長 S 51 年卒 中村美保子

各同好会活動に興味のある方は 14 頁の QR コードにアクセスしてください

テニス同好会



令和7年度テニス同好会は4月～3月で9回開催され、延べ参加者は54名でした。

今年は猛暑が続き高齢化している会員の健康を考慮し、6月～8月は中止を余儀なくされました。また本人の故障や家族の不調等で参加者が少なく、毎回時間を短縮して何とかプレイを楽しむ事ができました。



第116回 芝公園

9月、11月は久々に芝公園テニスコートで開催。東京タワーを眺めながら都心でのテニスは、亡くなった宗野治義様との同好者の歴史を刻んだ場所です。6月には会員有志で横浜市にある霊園にお墓参りをして来しました。



宗野さんのお墓参り

お元気なプレイ姿が蘇ってきます。

120回目の令和8年3月27日にはテニス終了後、公園内の桜の下に移動し恒例のお花見会を行いました。地元亀戸「升本」の美味しいお取寄せ弁当とアルコールで喉を潤しながら、楽しく和やかな花を咲かせました。例会は交通の便も良い亀戸中央公園テニスコートで毎月第3水曜日に汗を流しています。プレイ終了後には亀戸駅直結の

お花見

- | | | |
|--------|----------------|----------|
| ◆第113回 | R7. 5. 21 (水) | 亀戸中央公園 |
| ◆第114回 | R7. 6. 20 (水) | 宗野さんの墓参り |
| ◆第115回 | R7. 9. 17 (水) | 芝公園 |
| ◆第116回 | R7. 10. 15 (水) | 亀戸中央公園 |
| ◆第117回 | R7. 11. 19 (水) | 芝公園 |
| ◆第118回 | R7. 12. 17 (水) | 亀戸中央公園 |
| ◆第119回 | R8. 1. 21 (水) | 亀戸中央公園 |
| ◆第120回 | R8. 2. 18 (水) | 亀戸中央公園 |
| ◆第121回 | R8. 3. 27 (水) | 亀戸中央公園 |

テニス同好会 会長
S38年卒 梶山恭一



中華「黄金の華」でエネルギーを補いながら同窓会トークのコミュニケーションで絆を深めています。同窓会の皆様やご家族の中にもテニスをなさる方、是非ご一緒にご参加頂きますようお願い致します。



第120回亀戸中央公園テニスの後のお花見にはゲストも参加

カラオケ同好会

笑顔に会えた♪

毎年、カラオケ忘年会と称して行われるカラオケ同好会、令和7年の第31回は12月13日(土)に開催されました。今回もS40年卒の田邊さんがオーナーのシーボニアメゾンクラブのカラオケルームを提供していただき、13名と少ない人数ながら、プロ歌手S51年卒の川守宏さんの参加もあり、おおいに盛り上がりまし



第31回中央は皆勤賞のS38年杉本さん、右端はオーナーのS40年卒田邊さん

いつも通り、個人戦は川守さんに審査員をしていただく、合計点で勝敗を決めるチーム対抗を行いました。

個人戦の優勝は毎年上位に食い込みますが優勝は初となるS43年の林和義さん。やはり、カラオケの達人が集まるメンバーの中で頭一つ抜け出すのは、容易ではありませぬ。楽しむのが一番ですが、今日のためにいっぱい練習してくださった成果を発揮しての優勝に拍手です。



初優勝43年卒林さん

川守さんの参加で、こぞとばかりにデュエットに殺到しましたが、女性陣全員でリレー式にデュエットしたのは楽しかったです。改めてプロで活躍する川守さんの歌声を身近に聴けるありがたさを痛感しました。いつもありがとうございます。

今回の最年長S38年卒の杉本さんが『僕は皆勤賞でこれからも更新したい！』と言ってくださったのがとても嬉しくて、毎年続けていて良かったって思えた瞬間です。



S51年卒プロ歌手の川守さんとリレー式デュエット

カラオケ同好会は同好会の中でも歴史が長く、歌い終わりはエールとともに校歌で締めくくり、毎年同じような企画を繰り返しています。今年2回開催したこともあり、30年以上続いている事を考えると感慨深いものがあります。

カラオケ同好会 会長
S48年卒 齋藤まり子



同期会 だより

第3回SC40年卒 関東支部同期会旅行 S40年卒 原初典

令和5年5月に喜寿を契機に始めた同期会旅行は、第3回目を令和7年5月20日(火)・21日(水)の両日開催しました。参加者は昨年同様9名です(但し2名の入替あり)。

今回の同期会旅行は「身の丈に合った、無理のない行動で無事2日間を過ごす」でした。その理由は昨年大雄山最乗寺の708段の石段に挑戦し、残念ながら全員途中リタイヤした経験からです。

1日目は熱海駅前の足湯「家康の湯」に集合。直ちに源頼朝・北条政子が結ばれた場所である



当館は昨年末テレビ東京「ガイアの夜明け」で当館の魅力が特集放映され、お値段の割に、食事が良く、かつサービスも良いと放送された通り、玄関並びにお風呂場ラウンジではアルコール類・ソフトドリンク全て無料です。早速玄関ラウンジにて乾杯、更にひと風呂浴びてお風呂場ラウンジで2回目の乾杯、その後ホテルの海鮮バイキングを肴に3度目の乾杯、更に部屋に戻って二次会で4度目の乾杯をしました。

翌朝は早々と朝食を済ませ、前夜に続き1時間半に及ぶミーティングで来年度以降の同期会旅行の在り方や支部総会出席を確認しました。



2日目は、小田原に戻り、タツプリと小田原城だけの見学。小田原城は

北条氏の本拠地で、北条氏康の時代は難攻不落の無敵城と言われ、上杉謙信や武田信玄の攻撃に耐えた名城。江戸時代に居館部が近世城郭へと改修され現在の小田原城址の主郭部分となった為、近世城郭と中世城郭が江戸期を通じて並存すると言

事から縁結びの神社として有名で、かつ伊豆の地名発祥の地でもある伊豆山神社に参拝し2日間の安全祈願、境内から伊豆山の街並みと相模湾に浮かぶ初島や伊豆大島を一望した。2名とも30分なんて長話はないとのことでしたが、いざ話始めると2人とも時間オーバー、こんなにも同期と楽しく愉快に過ごせる会ならば次回以降も必ず参加すると言

う2人の発言もあり、アツトという間の4時間でした。

最後は、小田原駅近の食事処で2日間の無事と7月の総会並びに来年の再会を誓い、結びの乾杯を行い「同期で語らうと言う、大きなパワー」を頂き帰路につきました。

飛翔会忘年会 S43年卒 井上典子

令和7年11月22日(土)11時30分より銀座西五番街ビル気軽に楽しめる雰囲気あふれるスパインバルにて、魚介・エリアコース料理と2ドリンクのセッションで飛翔会恒例の忘年会が開かれました。男性5名女性5名の参加でした。

同期生ならではの飾らない思いと静商生としての絆を改めて感じる事ができました。



ソードや近況報告などに笑顔が弾け、食べたり飲んだりダジャレや親父ギャグまで飛び出し、大笑いの楽しいひと時を過ごす事ができました。

散するには未だ早い時間

夫が亡くなってから飛翔会に加えて頂いて15年程になりますが、伊豆半島西海岸の松崎という地から、これからも楽しい会に出掛けられますよう心身の健康に留意し、まもなく喜寿を迎えるわけですが前向きに日々暮らして行きたいと考えています。



だったので、皇居東御苑を散策しようという意見一致で、タクシーで向かう事になりました。私と畠山さんは遠方からの参加で帰りの時間が心配になったので、残念ながらこの場で失礼させて頂きました。

第67回卒業同期会 関東から出席 広報部会の活動を披露

S 41年卒 小林吉照

令和8年2月14日、藤枝の結婚式場「小杉苑」にて第67回卒業同期会が古希を祝って開催以来7年ぶりに喜寿を祝う同期会が開催されました。

会場が結婚式場とあって、提供された料理は見た目にも豪華で、優しい味の和洋食は、高齢の我々にとって大好評でした。

最寄りの藤枝駅まで少し距離がありました。マインバスが送迎があり、車中ではすでに同期会が始まっているような雰囲気でした。小杉苑はわが同期で同期会会長の朝比奈潔氏が経営しており、会場としての使用はクラス会を含めて今回で4回目と記憶しております。

プログラムは順調に進み、同期の飛鳥圭介氏（坊野秀美氏）のエッセイが掲載されていることから、静岡同窓会関東支部より「会報34号」を参加者全員に配布した経緯と制作につ



いての説明を行いました。

会報の制作に携わる広報部会の委員はもともと編集とは無縁の素人の7名で、会報の取材、原稿作成・寄稿などの原稿収集、写真撮影、会報のペーJ割からレイアウトまでのデータ作成を業者に依頼することなく全て自分たちの手で行っていることを披露しました。また、封筒・宛名ラベル・総会案内状などの封入物のデータも広報部会が作成し、外注しているのは、会報の印刷・発送のみということも付け加えておきました。さらに35号からは会員に向けての発送作業も自前で行いたいと思っ

ていることを伝えると、配布された会報34号を改めて感慨深げに見ていました。「傘寿を前に、皆、身体のだよかに不安を抱えているながらも、楽しく活動している仲間がいることに元気が出た」と言ってくれた友がいたことはちょっと嬉しかったです。



22回 「湯けむり研究会」

S 42年卒 高塚年明

昨年11月27・28日と我が同期の第22回「湯けむり研究会」を実施しました。参加人数は11名でした。これまで伊豆、箱根を中心に戻りましたが、今回は趣向を変えて、身延線の「下部温泉」にしました。

27日は、まず在来線の富士駅に集合し、そこから富士宮駅で下車。富士宮焼きそばを食し、駅から600mの「富士山世界遺産センター」に向かいました。あいにく天候は小雨、4階の展望台から見えるはずの富士山が見えませんでした。晴れた日は凄いです。大迫力の富士山を眺めることができず。有難いことに高齢者は入場無料でした。同センターお勧めです。

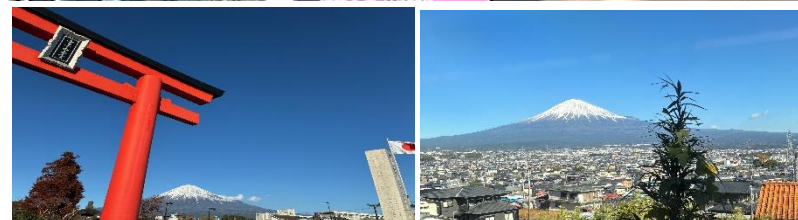
富士宮駅に戻り、下部温泉を目指しました。お宿は「下部ホテル」です。駅の目の前にありすぐ見つけられます。木々に囲まれた落ち着いたお宿です。頼んだコースは豪華版の「トロける甲州牛の創作懐石」です。この甲州牛がもの凄く美味しい

のです。本当にトロける味でした。食後はカラオケルームに直行、例年のごとく大盛り上がりでした。なにせ歌手が多いものですから。そして幹事部屋に集まり昔話に花を咲かせました。汽車通の私としては、帰りに松坂屋裏の「麦香村」で50円のちゃんぽんを食してから静岡駅に向かった思い出を話しました。

その後は、駅から1kmの富士山本宮浅間大社に向かい、各人それぞれのお祈りをしてきました。富士宮駅に戻り富士駅になりまして。今年も第23回を予定しております。お楽しみに！



富士宮『うなてん』



関東支部には活動の根幹を成す4専門部会(組織部会・企画部会・広報部会・応援部会)があります。それぞれの活動を順にご紹介します。

組織部会

組織部会では会員の皆さんの住所の把握と新規会員の発掘を主な活動としていますが、今年も次に掲げる活動を中心に実施中です。

《会員の皆様に年会費納入のご協力依頼》

静商同窓会関東支部は平成3年(1991年)創立以来、会費の納付にかかわらず会報をお届けすることで、同窓会の近況や様々な情報を共有させて頂いておりました。

近年会員の高齢化、若手の地元へのUターン現象による同窓生の減少等、全体的に会員数が減少傾向にあり、会費収入も徐々に減少しております。会報の發送部数を削減するなど対策を講じておりますが、これを継続することが困難な状況にあります。ついては、常任幹事会を通じて直近10

何卒趣旨のご理解をお願い申し上げます。

《令和8年卒業生を迎えて》

今年も昨年に続き、関東地区在住予定の母校卒業生に対する歓迎挨拶と説明会が、2月25日(水)母校で行われ、関東支部から大石支部長、渡部幹事長、小林常任幹事、安藤の4名が出席致しました。今年の関東地区在住の卒業生は37名で、全員が大学・専門学校に進学とすることです。

「関東支部新入同窓生説明会出席レポート」をご覧ください。

《準会員の認定》

本年より会則5条2項に定める準会員の認定として14名を推薦、常任幹事会で承認を頂き、現在、準会員認定者にご案内しております。

今後、準会員認定の見直しを、毎年継続的に実施予定です。

組織部会 会長
S45年卒 安藤 俊

企画部会

企画部会は総会・懇親会開催に関わる担当運営役員への支援、同好会活動の活性化、支部主催イベントの企画立案を行っています。今年度の企画部会の活動は以下の通りです。

(1) 令和8年度総会・懇親会開催に向けた取組み

◆会場・料理の再検討

昨年までの都道府県会館の会場での開催の是非を検討し、別会場(喜山倶楽部)での開催を決定しました。

◆運営役員へのサポート

令和8年度担当のS37卒、S47卒、S57卒に対して運営役員の役割について説明会を実施するとともに、計画策定のサポートを行いました。

(2) 同好会活動活性化について

同好会活動のバリエーションは総会・懇親会の

各種イベントとともに、関東支部の特長の一つです。

企画部会としては、各同好会に対して参加メンバーを固定化しない活性化に向けた取組みを進めていきます。

(3) 支部主催イベントの開催

このところ開催出来ない支部主催イベントについても実施を検討しています。

企画部会 会長
S48年卒 相川 雅美

広報部会

今回も会報35号を会員の皆様のご協力を得て無事発行できたこと、お礼申し上げます。

関東支部に於ける広報部会の役割は情報発信、会員との関係構築、同窓会のイメージ向上と多岐にわたります。その為、会報の年一回の発行、SNSでの情報発信をしています。

今まで、毎年前号に做つて企画を進めていたが、35号を発行するにあたり、改めて会員の皆

様に届けることの意義を考えてみました。

【同窓会会員の反応】

会報を見た会員の皆様には楽しく読みましたとお声がけをいただきました。SNSでも情報発信していますが、見る機会や検索するツールがないと言う会員の声も聞こえています。会報が定期的に届けば誰でも目にする事が出来るし母校を思い同窓生の近況を知って懐かしさを感じる事が出来ます。

「そもそも会報は誰向けのなか？」

SNSを見ない年配の方向けと思われるが、母校から離れてそれぞれの道を歩みだしたすべての卒業生にとって価値があるものだと思います。

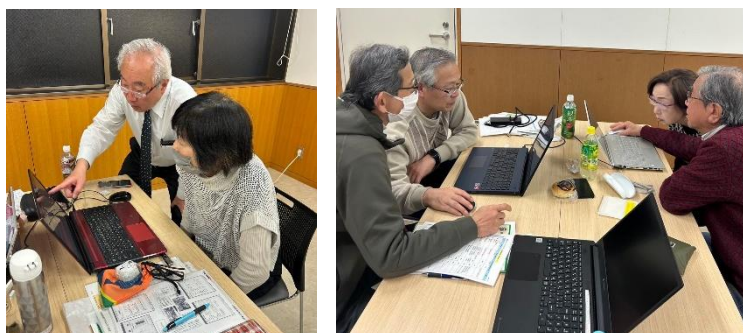
そうは言っても若い卒業生の参加には苦戦しているのが現状です。

「どんな会報を目指していくのか？」

今まで通りの内容に加え、今後の同窓会を支えていく若い会員を増やすためにも在校生の活躍を発信し魅力ある紙面を作

って、卒業しても母校、同窓生、在校生とのつながりに価値を感じていただける広い世帯に読んでもらえる会報誌を目指します。

以上の事から、35号からは新ページ現役静商生の活躍を発信します。



尚、同好会のイラストは広報部馬淵さん作です。

広報部会 会長
S48年卒 齋藤まり子

応援部会

応援部会は母校の部活動を応援するために立ち上げた部会です。運動部・文化部問わず全国大会等で関東にきた後輩達に対し関東支部の有志が集まり応援・激励に駆け付けます。

これまでに女子バスケット部の全国大会出場・水泳部の全国大会出場・軟式野球部の東京開催国体出場・情報処理部全国大会出場（電話で激励）・チアリーディング部の全国大会出場や硬式野球部の関東遠征に応援・激励に駆け付けました。直接応援の他にフェイスブック『ビバ静岡』に母校部活等の活躍や話題を投稿する活動も行っています。是非ご覧ください。

母校の現状は少子化により生徒数も一学年200名と聞きますが、母校のホームページを覗くと運動部・文化部ともに頑張っている様子が窺えます。後輩の皆さん、全国を目指して下さい。

関東から応援しています。頑張れ静岡!!

尚、今年も開催された硬式野球部『曲田監督を

囲む会』の模様は次の通りです。ご覧ください。

応援部会 会長
S48年卒 渡部廣志



の進路が決まり、大学や社会人で野球を続けている者、野球とは離れるが就職が決まった者それぞれ職先の会社名が紹介され、新たな人生のスタート位置に立っている事が報告されました。

その他、監督との歓談の中でいろいろ話が出てきましたのでまとめてみました。



新チームについて

2年生は人数が少ないが、1年生が揃っており、また4月に入学してくる生徒にも期待が持てるという話がありました。

フィジカル面の成長

静岡の選手は細身の子が多かったが体力づくりを力を入れる事で身体が大きくなった。接戦でも競り負けない体力がついてきた。其の成果が一昨年の御殿場西戦に打ち勝

った試合に現れた。

指導面でも期待

2006年優勝時のエースピッチャーだった大野健介さん（早稲田大、ヤマハで活躍）が定期的に指導にあたってくれているとのこと。私の記憶では配球が上手な投手だっただけに、フィジカル面の成長だけでなく、頭脳面やメンタルな部分において良い影響を与えてくれるのではないかと期待がかかります。

新制度について

9回タイブレーク制の導入や7イニング制やD日制の検討、更にはボールが飛ばない低反発バットの使用など、新制度の課題も多いが時代の変化にも対応しなくてはならないと触れられていたと思います。

関東支部OBの熱い思い

監督中心の談話の後、参加者から順番に発言があり監督への激励の言葉が送られました。



宮城の古川商業バレーボールチームを無名なチームから全国大会の常連校になるまで育て上げた監督の話。

曲田監督も大変な時期だと思うが辛抱強く頑張っている。等々たくさんの甲子園にまつわる話やら激励の言葉が送られました。

その後、関東支部から曲田監督にささやかながら激励金を贈らせていただきました。

最後は校歌斉唱で締め

最後は参加者全員で校歌斉唱、予定の3時間はあつという間に過ぎ、皆さんご機嫌に会場を後にしました。

応援部会

S48年卒

富井商之



品川区大崎3-5-2 JR大崎駅
エステージ大崎107 西口徒歩3分
電話 03-3779-3895
土曜・日曜・祭日定休
営業時間 ランチ 11:30~13:30
夕食 17:30~21:00

河田 正勝(S39年卒)



株式会社 鈴木塗装工務店

<http://www.suzukitosou.com>

取締役会長 鈴木 守(S37年卒)

現役静岡生の活躍

【静岡は、男女とも相撲が強い！】

母校静岡には相撲の強い選手がいると風の便りに聞いていましたが、今般詳しい情報が得られたので、お伝えします。

母校のHPでは、男女の相撲部（同好会扱い）の試合に出場した結果が報告されています。

最新情報では、女子相撲の平口幸芽（ひらぐちこうめ）さんが白鳳杯（2月8日）の選抜選手で出場した、という記事が掲載されています。

平口幸芽さんは全国女子相撲選抜ひめじ大会の「超軽量級」で優勝した実績があり、小さいがとても良い選手だということ、静岡朝日テレビのL.O.O.Kに特集されていました。昔から相撲部は強かったのですが、最近では福里豪志君という無差別級の県王者を輩出しており、新聞にも取り上げられました。平口さんは今年卒業を

迎えました。卒業後も夢に向かって頑張っていただけで嬉しいもので。で見られている感じがし



夢は美容業界で働くことと話す平口幸芽さん



練習中の平口幸芽さん

【静岡の生徒は、昔から頑張り屋！】

静岡西ロータリークラブが静岡の生徒を表彰した、というニュースが流れて来ました。

静岡西ロータリークラブに確認したところ「設立以来、毎年行っている表彰で、当初は静岡の定時制の生徒さんを支援する意味で始めた表彰制度。現在、定時制はないが、静岡商業の生徒に限って50年も続いている」ということでした。表彰の由来などを聞いてみると、静岡が温かい目



静岡高高 優秀生徒6人表彰
静岡西RC 学業、クラブ活動で成果

【全商検定 3種目1級合格者 76人が表彰さる】



全国商業高校協会検定の1級に3種目以上合格した生徒
＝静岡市葵区の静岡商高

令和8年2月27日母校で全商検定の全9種目の内、3種目以上の1級合格者76人が表彰されました。これは、2年連続の県内1位です。1学年の生徒数が減っている中で三分の一の生徒が3種目1級に合格しているのは驚異的。

関東支部新入同窓生説明会出席レポート



二、関東支部の定時総会・懇親会を毎年開催し会員相互の親交を図っています。



昨年引き続き、今年も関東在住予定の静岡卒業生37名を対象に、同窓会関東支部説明会の場を設けて頂きました。当日は、大石支部長をはじめ渡部幹事長、広報部会より小林常任幹事私の4名が出席致しました。当支部が用意したスライドを基に以下の通り説明致しました。

一、関東支部の発足目的位置付け（静岡本部との一線を画する組織）、会員数、総会・懇親会の概要及び、出席会員数等を説明。特に大学・専門学校に進学される皆さんは、関東支部に入会となることを強調しました。

三、次に、ゴルフ同好会・酒と肴を愉しむ会・歩く会・カラオケ同好会・テニス同好会・女子同好会（SCあじさい）・美の観賞会の7同好会の活動について説明、新入会員の参加を声掛けいたしました。

四、最後に、新入会員全員にチラシを配布、

「令和8年新入会員歓迎

会開催のご案内」について5月9日（土）東京湾を見ながら、バーベキューを楽しむ（無料招待）を説明。HPの連絡ページを通して参加を募りました。

松浦校長をはじめ、中村教頭、杉田教諭（学年主任）にご協力いただき、関東支部新入同窓生説明会を開催出来ましたことに感謝申し上げます。

組織部会長 安藤 俊

静岡同窓会関東支部の最新情報をお届けします

パソコンで検索するなら

スマホ・携帯から直接アクセス

関東支部 HP

会報1号～34号まで国会図書館でも閲覧できます。閲覧コード89238

静商同窓会関東支部役員名簿(敬称略)

令和8年5月11日現在

役職名	卒年	氏名	住所略
顧問	昭和40年	原 初典	町田市
支部長	昭和45年	大石 倫義	横浜市戸塚区
副支部長	昭和48年	相川 雅美	横浜市戸塚区
		岩城 一恵	世田谷区
幹事長	昭和48年	渡部 廣志	佐倉市
会計	昭和51年	中島 裕子	鶴ヶ島市
会計監査	昭和49年	高山 房之	市川市
		内田 晃	さいたま市
常任幹事	昭和35年	秋山 卓男	柏市
	昭和41年	小林 吉照	横浜市港南区
	昭和43年	岩下 喜美枝	横浜市南区
		岡本 朗子	船橋市
	昭和44年	的野 典子	船橋市
	昭和45年	安藤 俊	春日部市
	昭和47年	馬淵 興二	川口市
	昭和48年	齋藤 まり子	江戸川区
	昭和51年	中村 美保子	横浜市港北区
	昭和53年	熊谷 美智男	小平市
	昭和54年	矢部 正志	川口市
	平成6年	若尾 剛志	練馬区
	幹事	昭和30年	石貝 晃司
昭和34年		小長井 武夫	渋谷区
昭和35年		中川 明巳	練馬区
昭和36年		平井 幸雄	八王子市
昭和37年		増田 数茂	横須賀市
		鈴木 守	文京区
昭和38年		吉澤 英夫	大田区
		梶山 恭一	西東京市
		後藤 忠昭	浦安市
杉本 博行		足立区	

役職名	卒年	氏名	住所略
幹事	昭和39年	川崎 衛	府中市
	昭和40年	小早川 宏	松戸市
		神山 孝	さいたま市
		長田 豊	日高市
	昭和42年	小林 幸義	松戸市
		高塚 年明	藤枝市
	昭和43年	林 和義	東久留米市
	昭和44年	長山 静枝	柏市
		木村 雅美	横浜市金沢区
	昭和45年	土屋 重和	習志野市
	昭和46年	岡島 治樹	横浜市戸塚区
	昭和48年	青木 洋一	品川区
		青島 正一	印西市
		富井 商之	川崎市麻生区
	昭和49年	根岸 巖	白岡市
	昭和50年	杉本 幸雄	練馬区
	昭和51年	萩原 克則	鹿嶋市
		井上 真理子	川崎市麻生区
		中平 整子	中野区
	昭和52年	富田 弘行	台東区
	昭和56年	高柳 佐和美	国分寺市
	昭和57年	石井 徹	横浜市保土ヶ谷区
	昭和58年	田中 彰二	横浜市神奈川区
	平成 1年	天笠 律津子	綾瀬市
	平成 6年	浦田 輝	台東区
	平成 7年	芦澤 洋介	藤沢市
岩科 理絵子		さいたま市	
平成12年	村松 太一	野田市	
平成16年	李 慎	港区	

令和7年度決算 会計報告及び会計監査報告

(令和7年4月1日～令和8年3月31日まで)

1. 一般会計

区分	項目	金額	
収入の部	前期繰越金	835,614	
	本年度収入	総会会費等収入	737,099
		年会費	496,000
		寄付金	437,000
		本部助成金	10,000
		広告収入	30,000
		預金利息	8,790
		雑収入	0
		小計	1,718,889
	合計	2,554,503	
支出の部	総会費用	1,125,783	
	本年度支出	会報発行費	149,045
		専門部会活動費	250,851
		同期会補助金	0
		会議費	183,065
		運営諸経費	288,451
		小計	1,997,195
	支部基金組入	0	
	次期繰越金	557,308	
	合計	2,554,503	

2. 支部基金会計

	項目	金額
支部基金	前年度末残高	4,400,000
	本年組入額	0
	本年度末残高	4,400,000

3. 財産目録

	項目	金額
三井住友銀行	支部基金	4,400,000
		255,766
ゆうちょ銀行	次期繰越金	233,470
手元現金		68,072
	小計	557,308
合計		4,957,308

上記の通り、報告します。

令和8年4月11日

静商同窓会関東支部 会計 中島 裕子

令和7年度 会計監査報告

監査の結果、上記の報告に相違なく適正であることを認めます。

令和8年4月11日

静商同窓会 関東支部 会計監査 高山 房之

会計監査 内田 晃

会費・寄付等納入者御芳名

(敬称略:順不同、単位千円)

会員の皆様の暖かいご支援ご協力に対しまして厚く御礼申し上げます。令和8年3月までに納入頂いた方々のご芳名を下記のとおりご報告申し上げます。

作成に当たっては、誤字、記載漏れのないよう注意しておりますが、万一不手際が有りました場合は深くお詫び申し上げます。

(注)金額欄右の*印は令和7年度総会・懇親会の出席者を示します。

卒年	氏名	金額	卒年	氏名	金額	卒年	氏名	金額	卒年	氏名	金額
昭和27年	望月 健三郎	5	昭和37年	中田 有智子	2	昭和41年	松本 豊	7	昭和48年	牛村 優子	2
昭和29年	阿部 勝子	2		佐野 敏夫	2 *		鈴木 猪久男	2		渡部 廣志	4 *
	興津 高里	5	昭和38年	互井 まり子	2		福地 肇	5		岩城 一恵	3 *
	宮川 欣也	5		吉澤 英夫	32 *	昭和42年	小林 幸義	5 *		齋藤 まり子	3 *
	鈴木 正子	2		後藤 忠昭	15		鈴木 修一	2		小川 えり子	2
	安池 貢	2		小澤 昌明	2		内藤 泰敏	2		相川 雅美	12 *
	山田 雅子	3		高田 洋子	2		吉野 秀男	2 *		大和多 孝	2
	池ヶ谷 秀男	2		花村 磯男	2		橋本 孝一	5	昭和49年	内田 晃	5 *
	鈴木 郭之	2		佐藤 亘	4		山田 鐘作	2 *		秋田 秀幸	4 *
昭和30年	海野 昭	22		栗山 富美子	2 *		山口 ひろみ	2		醍醐 寧子	3 *
	成岡 武	2		岡村 優	2 *		木下 孝子	4		高山 房之	4 *
	大森 泰次	2		杉本 博行	7 *		高塚 年明	5 *		芳澤 正明	2
	石貝 晃司	5 *		梶山 恭一	7 *		高山 康明	2 *		大塚 典子	2
	高木 慶二	10		八木 勝司	2		鶴岡 純代	3		根岸 巖	2
昭和31年	勝山 葆	2	昭和39年	足立 久男	2 *		北川 陽子	10		遠山 真佐子	2
	山内 浩三	5		曾根田 正美	2		是永 二三男	2		室井 千歳	2
昭和32年	阿井 勝利	10		杉山 千之	2		小坂橋 米子	2		佐合 陽子	2
	島田 卓司	2		河田 正勝	2 *		小長谷俊勝	2		村田 はるえ	5
昭和33年	増田 欣也	2		鷺坂 泰弘	2	昭和43年	小林 幸二	4	昭和50年	杉本 幸雄	5
	上條 佐恵子	2		青柳 秀雄	5		井上 典子	2	昭和51年	川守 宏	2 *
	佐野 勝一	2		永野 孝司	2		岡本 朗子	2 *		中島 裕子	4 *
	鈴木 五郎	5		川崎 衛	7 *		山口 憲治	2		大江 一明	2
	野呂瀬 誠子	2		杉山 俊夫	2		新村 敏郎	2		鈴木 昭彦	2 *
昭和34年	常盤 秀樹	5		清水 豊	2		瀧浪 利信	5		中村 美保子	4 *
	伏見 重夫	2		檜林 勝	2		林 和義	7 *		萩原 克則	5
	鈴木 啓嗣	5		杉山 賢次	2		畠山 三千代	2		中平 整子	2
	藪崎 公一	5		黒田 忠志	2		岩下 喜美枝	3 *		井上 真理子	2
	高木 美子	2		海野 潔	2		佐藤 秀子	2		栗山 正春	2
	小長井武夫	5	昭和40年	原 初典	22 *		八木 訓二	2	昭和52年	阿部 千明	5
	杉山 光男	2		木村 光雄	2		長橋 修	2 *		山本 真弓	2
	安池 和高	2		中畑 稔	2 *		村松 典子	2	昭和53年	道明 玲子	2
	水野 恵司	2		関塚 仍子	5		小林 茂	3		熊谷 美智男	7 *
	戸井 政広	2		鷺巢 雅彦	2		橋 みちよ	2		吉崎 裕	2
	萩原 卓	2		石貝 篤	4 *	昭和44年	的野 典子	3 *		山下 操	5
	畑 幸男	2		小早川 宏	2 *		長山 静枝	3 *	昭和54年	矢部 正志	2
	桑原 達夫	2		神谷 雅男	2 *		望月 和男	2 *		佐藤 律子	2
昭和35年	鈴木 祐輔	2		内海 廣二	2		星野 修司	2		土屋 公二	2 *
	小林 一男	10		中野 幸子	2		木村 雅美	4	昭和55年	田畑 万理子	2
	中川 明巳	4 *		中野 睦夫	2	昭和45年	山口 千江	2	昭和56年	高柳 佐和美	5 *
	秋山 卓男	7 *		長田 豊	2 *		甲田 静枝	2		花村 博雄	2 *
	小澤 廣記	5		神山 孝	2 *		山田 茂	2		小菅 秀子	3 *
	新聞 健一	10		奥川 良彦	2		大石 倫義	22 *		久保 初美	2 *
昭和36年	小長井 建昭	5		八十浜 隆司	5		安藤 俊	7 *		久保 博康	2 *
	高木 英雄	2		長尾 健次	2		松島 英雄	2 *		山梨 美喜男	2 *
	田中 貞雄	2		塩澤 敏雄	2 *		土屋 重和	2 *		海野 光利	7 *
	池ヶ谷 捷之	2		鷺巢 哲也	3		鈴木 正行	2 *		鈴木 敏之	2
	渡辺 秀世	2		須川 福男	2		古牧 清孝	2 *	昭和57年	久米 徳幸	2
	石井 清史	2		田邊 勉	7 *		小林 三男	2		倉澤 幸靖	2
	土岐 守行	5		見城 正博	2 *		飯塚 哲夫	2		長谷 誠	2
	鷺坂 勉	2		重坂 宣良	2 *		原田 恵一	2 *	昭和58年	長尾 節子	4
	平井 幸雄	5		森谷 綾子	2	昭和46年	杉山 正明	2 *		三谷 明	10
	大石 康年	5		石川 唯夫	2		岡島 治樹	2 *	昭和59年	宮脇 学	4
	鷺野 喜八郎	4	昭和41年	森 秀男	5		葉桐 治彦	7 *		永野 徹	10
	前山 忠弘	2		佐藤 文子	2		山本 優	2	昭和60年	山本 英之	2
	鷺巢 三郎	2		坊野 秀美	5		梶山 久志	2 *	昭和63年	渡辺 由美	2
昭和37年	鈴木 守	5 *		坊野 やえ子	5		大野 康彦	2 *	平成元年	天笠 律津子	2
	青島 幸一	2		山中 明夫	2		三石 輝子	2	平成3年	森 友里	3
	山梨 理恵子	2		佐々木 由美江	2		佐藤 美代子	5	平成6年	若尾 剛志	5
	片山 征勇	2		矢込 俊吾	5	昭和47年	森 茂	7 *	平成7年	岩科 理絵子	4
	松田 厚子	4		土方 八重子	2		馬淵 興二	5 *			
	松田 弘	12 *		松浦 ユリ	2		望月 芳雄	10			
	安川 榮子	2		良知 章男	3	昭和48年	富井 商之	5			
	増田 数茂	12 *		小林 吉照	7 *		望月 延夫	2			
	西島 一二三	3 *		福島 正五	3		青島 正一	7 *			

会費・寄付金合計
251人・933,000円
(会費496・寄付437)